6月議会と視察の報告

9

【一般質問】
働く人 × 生きる自然――唐津を支える両輪

①市職員が働きやすい職場づくり

市長からは「唐津市で働く誰もが、心と体が健康で、生き生きと仕事をしてもらうための職場環境づくりは大変重要である」との強い答弁をいただきました。また、人事部からは「休憩室やリフレッシュスペースの設置について、まずは職員のニーズを把握するためにアンケートの実施を検討している」との答弁がありました。改善は着実に始まっています。

② 生物多様性と「ネイチャーポジティブ（NP）宣言」

これまで社会は自然資源を犠牲にして発展を優先してきた結果、生態系は危機に直面し、国際的な議論やルールづくりが進んでいます。一方、日本では古くから自然と共生する文化が根づいており、横文字の多い議論は「自分ごと」として実感しにくい面もあります。

しかし、NP は世界が共通して掲げる「自然の損失を止め、回復に向かう」という大きな流れです。そして唐津市も令和7年3月末に市長ご自身が「NP 宣言」を発出。

いま、環境保全が社会的にも経済的にも報われる時代が到来し、自然を「価値」として可視化し、お金に変える仕組みが動き始めています。唐津では、海や森林の管理によって温室効果ガスの削減を「J クレジット」として価値化し、企業が購入してカーボン・オフセットに役立てています。このように自然の力を経済の仕組みにつなげる制度を、もっと積極的に取り入れていけば、環境と経済が循環する強いまちへと成長できると信じています。

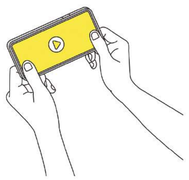
私はそのビジョンを議場で示し、ともに実現へ踏み出そうと訴えました。

ピープル放送より議場の様子

一般質問の様子はこちらからご覧いただけます

唐津市議会　インターネット映像中継

新風唐津　　古田　リバー　議員
・令和7年第3回定例会　6月16日本会議 一般質問
・令和7年第3回定例会　6月10日本会議 議案質疑　等



https://karatsu-city.stream.jfit.co.jp/?tpl=speaker_result&speaker_id=202

10

議案質疑の舞台裏――
基金の使い道に強い疑問

補正予算全72事業の総額は約921億4千万円。そのうち、約6億9千万円（全体の26%）が「基金」から充てられ、30事業に活用されていました。基金とは、市がお金をプールしておく“貯金箱”のようなもの。目的ごとに「福祉基金」「まちづくり基金」などがあり、普段の財布とは別に“いざというとき”に備えるお金です。

しかし、費用対効果の見えないプロジェクトが多く、何度質問を重ねても「なるほど、これは必要だね」とは納得できませんでした。私は強い憤りも感じています。ニーズが多い唐津だからこそ、先を見据えた予算配分が必要です。

これからも「その事業は今、必要か」を問い続けます。

11

熊本・鹿児島視察の学びを
唐津へ持ち帰って

令和7年7月29～30日、都市整備委員会の行政視察に参加しました。2030年に唐津がサテライト会場として参画予定の「全国都市緑化フェア」に向けた工夫や取組を熊本市で伺いました。

また、唐津のクルーズ船誘致の促進のため、鹿児島の「マリンポートかごしま」を観てきました。「行って観て終わり」とせず、いま種まきを進めています。進捗はブログ、または次回のだるま通信でご報告します！

ご意見やご相談は、私のホームページまでお寄せください！

ふるたリバー　検索

ぜひフォローしてくださいね！

ホームページ　ブログ　Instagram

Team River（唐津市議会議員 古田リバー後援会）ニュースレター　発行：2025年9月

〒847-0855 佐賀県唐津市西浜町 1-15
電話 070-3970-0774（直通）
メール info@team-river.com
https://team-river.com/

だるま通信 Vol.4

～高橋是清のひ孫から～

唐津市議会議員 ふるた リバー

一番好きなお菓子はジャイアントコーン！スナックは素材重視の無印派、アイスは黄→赤→青（包装紙）の順に好きです。夏はアイスの出番が多く、市役所の6階にある190円のモナカアイスが私の密かな栄養補給。議員の仕事はハードですが、こういう小さな楽しみがエネルギー源になっています。

TOPICS

1. 1,174票の想いと向き合い、選んだ戦略
2. 世界の話題を身近に ―― 2分で「へぇ～」
3. 失われる藻場、立ち向かう漁師たちの現場から
4. 花き栽培と地域農業の未来
5. 森を守るための皮むき間伐と生物多様性
6. 川の環境調査で見えた豊かさの低下
7. 清掃活動から考える自助・共助・公助
8. 段ボールを活用した親子工作イベント
9. 【一般質問】働く人 × 生きる自然――唐津を支える両輪
10. 議案質疑の舞台裏：基金の使い道に強い疑問
11. 熊本・鹿児島視察の学びを唐津へ持ち帰って

～高橋是清との共通点～　7回も大蔵大臣に就任した高橋是清は、不運を「冒険譚」として受けとめ、天真爛漫に語ってきました。苦しみの先にある気づきは成長につながるもの。私も、逆境をどう前向きに転じてきたか、自分の歩みを恥じずに伝えます。この姿勢がひいおじいちゃんに似ているところであり、それぞれの時代に同じ唐津で挑んでいることを思うと、深い縁を感じます。

あえて違う角度から

1

1,174票の想いと向き合い、選んだ戦略

立候補のときは「教育と福祉の充実」を掲げましたが、実際に議会に入ってみると、法律や制度に縛られて「新しい風」を吹かせにくい分野だと痛感しました。1,174名の皆さんの一票の重みをどう活かすかを考え抜いた結果、あえて違う視点と角度から挑む必要があると確信しました。

まず、唐津をより暮らしやすくするために欠かせないのは、市役所職員の皆さんとの連携です。職員が心身ともに健康であることが、市民に寄り添った行政を進めるうえで何よりの力になります。さらに、唐津の環境資源を守り活かす「ネイチャーポジティブ」と、空の産業革命とも言える「ドローン」。この二つの挑戦を軸に、唐津の課題解決へ切り込んでいきます。

もちろん、教育と福祉を置き去りにするつもりはありません。9月議会終了後は、市内すべての小中学校を訪れ、授業・施設・人員体制を見てきます。

これからも「新しい挑戦」と「現場の声」を結びつけ、皆さんと対話を重ねながら、唐津の未来を一緒に切り拓いていきます。

2

世界の話題を身近に ―― 2分で「へぇ～」

インスタグラムで「何読んでるの？」シリーズを始めました！購読している英字新聞から記事を選び、2分以内のショート動画で紹介しています。

日本語の解説に加え、ところどころネイティブな英語も交えており、英語学習にも役立つかもしれません。ときには私の鳥たちも登場し、知的な学びと癒しをセットでお届けしています。

◀ リバーの Instagram はこちら！

missriver45

ヒントはいつも現場にある

3

失われる藻場、立ち向かう漁師たちの現場から

唐津の海で進む磯焼け（いそやけ）は、もはや見過ごせない問題です。温暖化によって海藻が育ちにくくなり、魚や貝のすみか・産卵場・餌場となる藻場（もば）が失われつつあります。その結果、ガンガゼ（トゲに毒を持つ食べられないウニ）が増えています。加えて、高齢化と後継者不足、海洋環境汚染、そして国際競争や輸入水産物の増加により、漁業の継続は深刻化しています。肥前町だちくの漁師たちは、6月から9月にかけて、ほぼ毎日海に潜り、鉄の棒でガンガゼを一匹ずつ駆除しています。

危険を承知で続けられるのは、「自然と共に生きる」という覚悟と誇りがあるからです。唐津市でも令和4年度から藻場再生事業を本格的にスタートし、ガンガゼの密度管理や母藻の設置（イカダ）、定期的なモニタリングを進めています。

後日、会派を超えて8名の市議会議員と一緒に漁師・袈裟丸さんの現場を訪問しました。彼はこれまでに東京ドーム2個分の藻場を再生。「元気な海を取り戻す方法はすでに実証されており、いま必要なのは、それを一緒に実行し、広げていく仲間です」と語られました。唐津の海を守れるのは、唐津に生きる私たちです。この営みを決して途切れさせず、次の世代へと渡していく責任があると、現場で強く感じました。

4

花き栽培と地域農業の未来

佐賀県唐津農林事務所の説明会でホオズキとシンテッポウユリの栽培・経営状況を学びました。計算上、小さな面積でもどちらも所得が期待できる作物といえます。

説明の後、両方の花を栽培している鎮西町の菜園を訪問。活発なQ&Aを通じて、虫や病気など栽培の難しさへの理解がぐっと深まりました。数字を知り、現場を見て、制度をしっかり理解する。そのうえで「どうすればもっと良くなるか」を一緒に考えられる関係を、これからも大切にしていきます。

5

森を守るための皮むき間伐と生物多様性

森は手入れを怠ると木が密集し、光や栄養が不足して弱ってしまいます。その結果、土砂災害や生物多様性のリスクが高まるため、森の健康を保つには間伐（かんばつ）が欠かせません。

今回体験したのは「皮むき間伐」。木の皮の内側には栄養を運ぶ“血管”があり、そこを一周剥ぐと流れが止まり、木は立ち枯れます。その枯れ木は、鳥や昆虫のすみかとなり、土壌で働く菌も育ち、森の循環と生態系を支えていきます。時間をかけて自然乾燥していき、一人でも運べるほど軽くなるので、重機が入れない森でも活用できます。

この体験を通じて感じたのは、皮むき間伐が生物多様性を守るだけでなく、防災の視点でも大切だということ。自然と人の安全は表裏一体であり、森を守ることはそのまま唐津の未来を守ることにつながります。

唐津の魅力は努力の積み重ねから

6

川の環境調査で見えた豊かさの低下

七山地域の玉島川での「水環境健全性モデル調査」は、平成22年から続いており、環境省のページにも記録が残る歴史ある取り組みです。今回は、七山中学校、唐津市、専門家の皆さんと協力し、玉島川の水生生物を採取し、水質を評価しました。毎年、同じ時期・場所・時間帯に調査しているからこそ変化が見えます。

今年は、七山の災害復旧工事の影響もあり、水の濁りや生物の種類と数も減少。多くの参加者が「川環境の質の低下」を実感しました。

一方で、私は、生徒たちが夢中で生き物を探す姿に心を動かされました。川の豊かさが失われつつある現実は残念ですが、その瞬間の「自然と共に学ぶ楽しさ」が、子どもたちの心に残り、未来の環境保全につながっていくのだと思います。

7

清掃活動から考える自助・共助・公助

相知町の横枕神社そばには、江戸時代から続く「暮らしの川」があります。かつては米洗いや野菜を冷やす生活の場でしたが、今は草や竹が生い茂り、大雨のたびに民家を脅かすほどになっています。

早朝、地元住民や学生たちと力を合わせて清掃し、川の流れを整えました。チェンソーやノコギリを使う作業は体力だけでなく知識も必要。学生が多く集まったから広く整備できましたが、地元だけなら繰り返しが必要で人手不足は深刻。環境を整えることの大変さを実感するとともに、地域の思いと努力に頼るだけでは限界を感じました。

高齢化と人口減少が進む中で、行政の支え（公助）の在り方を本気で考える時が来ています。

8

段ボールを活用した親子工作イベント

6月上旬に開催された「親子で作ろう！ダンボールから生まれる小さな自然」。このイベントのために株式会社まいづる百貨店から段ボールが提供され、早稲田佐賀高校の生徒たちが2週間、毎日放課後に準備を重ね、企画から当日の運営まで一生懸命に取り組みました。

当日、朝から会場は賑わって、テープやカッターを使って段ボールでタンカーや打楽器を作る親子の姿も。私は学生たちが企画したスタンプラリーに挑戦し、唐ワンくんとツーショット。

夢中になる親子や学生たちの姿に勇気をもらい、気づけば、また唐津が心に深く刻まれていました。

ふるたリバー後援会よりお知らせ

チームリバーの仲間を募集中！

唐津市政の発展と住民福祉の向上を
一緒に目指す方々とつながりませんか？

オンライン申し込み先

右のQRより、ご紹介・問い合わせ・意見交換ができます！